

## 文化学必修科目・専門PBLセミナーB（旧：文化学セミナー）の履修にあたって

### 1. 全体的な注意事項

文化学科の学生の皆さんは、1年次の終わりに自分の専門の地域を選び、2年次からその地域に関して、総合的に勉強していくことになります。そして、3年次からは、基本的に、その地域の中の様々な領域——言語、文学、思想、地誌、歴史、社会、民族等——のいずれかに関して、演習等において深く研究していくことになります。そして、その際には、言語科学、文学研究、歴史学、地誌学・環境学、哲学・思想、社会学、人類学、情報学といった学問分野の専門的な知識が必要となります。例えば、日本の思想に関して深く研究するには、哲学・思想の専門的な知識が必要となります。

2年次後期に全員が履修しなければならない専門PBLセミナーB（2単位必修）は、そうした専門的な知識をセミナー形式で能動的に身につけるためのものです。そして、この専門PBLセミナーBを履修するにあたって前提となるのが、文化学必修科目です。

専門PBLセミナーBには、様々な種類——言語科学、地理学、日本文学、等々——がありますが、それぞれにおいて、履修のためのガイドラインが定められています。そのガイドラインとは、基本的に、文化学必修科目の履修に関するものです。

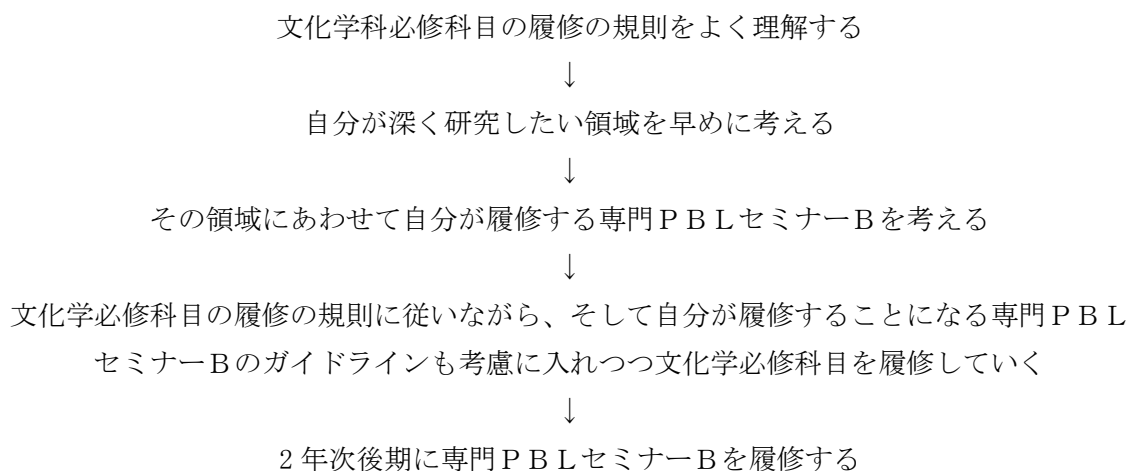
文化学必修科目を履修するにあたっては、決められた規則に従わなければなりません。その規則については、この文書の「2. 文化学必修科目の履修の仕方」及び履修要項の当該の箇所をよく読んでください。ただ、その規則に従うだけでなく、自分が履修することになる専門PBLセミナーBが定めたガイドラインも考慮に入れなければなりません。

例えば、北アメリカの民族文化について深く研究したい人は、専門PBLセミナーB（文化人類学・文化社会学）を履修することになります。このような人が、文化学必修科目を履修していく場合には、文化学必修科目の履修に関する規則に従うだけでなく、専門PBLセミナーB（文化人類学・文化社会学）が定めたガイドラインも考慮に入れなければなりません。

以下に、文化学必修科目の履修の仕方、文化学必修科目一覧、各専門PBLセミナーBの概要と各専門PBLセミナーBが履修の前提とするガイドラインを掲げます。

文化学必修科目を履修するにあたっては、2年次後期の専門PBLセミナーB履修のことも考えて、計画的に行うようにしてください。

## \* 文化学必修科目・専門PBLセミナーB履修に当たっての基本的な道筋



## 2. 文化学必修科目の履修の仕方

- ① 計 12 単位を履修しなければならない。その内、8 単位を文化学必修科目（基礎）から、4 単位を文化学必修科目（発展）から履修しなければならない。
- ② 文化学必修科目（基礎）については、科目に枝番がある場合には（例えば、「言語科学概論A-D」、「歴史学概論A-F」のような場合）、4 単位まで（例えば、AとB合わせて4 単位まで）を文化学必修科目として認める（それを超える場合は、自由選択科目の単位として扱う）。
- ③ 文化学必修科目（発展）については、科目に枝番がある場合には（例えば、「ドイツ文学論A-B」、「文化環境論A-D」のような場合、）2 単位までを文化学必修科目として認める（それを超える場合は、自由選択科目の単位として扱う）。
- ④ 文化学必修科目（基礎）の履修年次は、1・2・3・4 年次である。ただし、1 年次に於いては、前期 2 単位、後期 2 単位までしか履修できない。
- ⑤ 文化学必修科目（発展）の履修年次は、2・3・4 年次である。

### 3. 文化学必修科目一覧

#### <文化学必修科目（基礎）>

授業科目	単位	履修年次
言語科学概論A～D	各2	1・2・3・4
文学概論A～L	各2	1・2・3・4
哲学概論A～B	各2	1・2・3・4
倫理学概論A～D	各2	1・2・3・4
歴史学概論A～F	各2	1・2・3・4
考古学・文化財学概論A～B	各2	1・2・3・4
社会学概論A～B	各2	1・2・3・4
文化人類学概論A～B	各2	1・2・3・4
地理学概論	2	1・2・3・4
環境学概論	2	1・2・3・4

#### <文化学必修科目（発展）>

授業科目	単位	履修年次
言語科学論A～B	各2	2・3・4
英米文学論	2	2・3・4
ドイツ文学論A～B	各2	2・3・4
生命倫理論A～B	各2	2・3・4
美術史A～D	各2	2・3・4
美術理論A～B	各2	2・3・4
学術情報論A～B	各2	2・3・4
地域環境論A～B	各2	2・3・4
文化環境論A～D	各2	2・3・4
自然環境論A～B	各2	2・3・4
比較思想	2	2・3・4
比較社会論	2	2・3・4
比較文化論	2	2・3・4

#### 4. 専門PBLセミナーB一覧（各2単位）

専門分野別に、複数の教員が担当します。2020年度は以下の10セミナーが開講されます。

##### 専門PBLセミナーB（言語科学）

【担当者】○服部範子、綾野誠紀、松岡幹就、大熊富季子、吉田悦子、井口靖、大喜祐太

【概要】本セミナーでは、あまりにも身近過ぎる我々のことばが、実は不思議に満ち溢れていることについて、言語研究の諸分野の研究に基づいて紹介します。本セミナーを受講することにより、ことばの研究には、どのような課題があり、また、どのように研究を行うのか、その一端を知ることができます。

【履修にあたってのガイドライン】このセミナーを履修するにあたっては、2年次前期末までに、文化学必修科目「言語科学概論A」及び「言語科学概論B」の単位を取得していることが望ましい。

##### 専門PBLセミナーB（欧米文学）

【担当者】○田畠健太郎、菅利恵、山本覚、小田敦子、赤岩隆、野田明

【概要】西洋古典から近現代文学に至るヨーロッパおよびアメリカの文学作品を、言語・時代・地域・ジャンルを横断し、文化・社会的背景等を参照しつつ、様々な手法で読む練習を行います。上記を通して欧米文学・文化の通時的および体系的理解を深め、研究の対象となる作品や、概念、理論、問題意識、研究方法論についての基礎知識を修得します。

【履修にあたってのガイドライン】このセミナーを履修するにあたっては、2年次前期末までに、文化学必修科目「文学概論A～D」から最低2単位を修得していることが望ましい。

##### 専門PBLセミナーB（中国語学・中国文学）

【担当者】○湯浅陽子、濱田武志、花尻奈緒子、劉靈均

【概要】中国古典文学、中国現代文学、中国および東アジアの言語について、4人の担当教員がリレー方式で担当し、各分野の基礎的知識についての講義を行いつつ、その諸問題について履修者とともに検討する。

【履修にあたってのガイドライン】このセミナーを履修するにあたっては、2年次前期末までに、「文学概論I～L」及び「言語科学概論C～D」の中から2単位以上を取得していることが望ましい。また、「中国の文学」或いは「中国の言語」等を履修すること及び中国語を学習していることが求められる。

##### 専門PBLセミナーB（西洋哲学・西洋思想）

【担当者】○薄井尚樹、田中綾乃、安倍里美

【概要】哲学であつかわれる、自由、心、幸福といったトピックは、そのままでとても抽象的で、なかなか理解することが難しいものです。そんなときにしばしば使われるのが

「思考実験 thought experiment」と呼ばれる方法です。思考実験では、ある状況を想像し、そこでどんな事態が生じるかを考えてみることで、なかなか理解しづらいトピックの実質を明らかにしようとしています。本講義では、さまざまな思考実験を考察しながら、哲学の基本問題についての理解を深めていきます。

【履修にあたってのガイドライン】このセミナーを履修するにあたっては、2年次前期末までに、またはこのセミナーと並行して、文化学必修科目「哲学概論A～B、倫理学概論A～D、比較思想、生命倫理論A～B」の中から4単位程度を取得することが望ましい。

### 専門PBLセミナーB（東洋哲学・東洋思想）

【担当者】○遠山敦、久間泰賢

【概要】テキストの講読に基づいて、東洋の哲学・思想における基礎的な概念や考え方を理解するとともに、研究の進め方についてその基本を身につける。

【履修にあたってのガイドライン】このセミナーを履修するにあたっては、2年次前期末までに、またはこのセミナーと並行して、文化学必修科目「哲学概論A～B、倫理学概論A～D、比較思想、生命倫理論A～B」の中から4単位程度を取得することが望ましい。

### 専門PBLセミナーB（西洋史・東洋史・美術史）

【担当者】○藤田伸也、野村耕一、森脇由美子、酒井恵子

【概要】西洋史・東洋史・美術史の各学問分野において専門研究が始められるように、各分野の基礎知識や研究方法を学ぶ研究入門セミナー。

【履修にあたってのガイドライン】このセミナーを履修するにあたっては、2年次前期末までに、またはこのセミナーと並行して、文化学必修科目（基礎）「歴史学概論A～F」から2単位と、文化学必修科目（発展）「美術史A～D」、「美術理論A～B」から2単位程度を取得していることが望ましい。

### 専門PBLセミナーB（地理学）

【担当者】○中川正、谷口智雅、森正人、北川眞也

【概要】文化と環境の地理学的アプローチを学ぶ。

【履修にあたってのガイドライン】2年次前期末までに、「地理学概論、環境学概論、地域環境論、文化環境論、自然環境論」の中から2単位以上を取得していることが望ましい。

### 専門PBLセミナーB（文化資源学）

【担当者】○塚本明、小澤毅、山田雄司、村口進介、吉丸雄哉、開信介、川口敦子

【概要】日本文化を通時的に考察する能力と、古文書・出土文字資料・金石文・古典籍・絵画資料などの文化的資料を扱える能力とを修得する。語学・文学と史学との垣根を越えて、さまざまな体裁の資料を横断し、それらを吟味する基礎的な力を養う。

【履修にあたってのガイドライン】このセミナーを履修するにあたっては、2年次前期末までに、文化学必修科目「文学概論E～H」の中から最低限2単位、または「歴史学概論A・B、考古学・文化財学概論A・B」の中から最低限2単位を取得していることが望ましい。

#### 専門PBLセミナーB（社会学・図書館情報学）

【担当者】○江成幸、三根慎二、永谷健

【概要】社会学、社会運動論、国際社会学、図書館・情報学などの分野に関わるセミナーです。各分野でこれから専門的な研究が進められるように、基礎知識や研究手法について理解を深めます。3人の担当者がリレー方式で授業を行います。

【履修にあたってのガイドライン】このセミナーを履修するにあたっては、2年次前期末までに、文化学必修科目「社会学概論A～B、比較社会論、学術情報論A～B」の中から最低限4単位を取得していることが望ましい。またこのセミナーと並行して、社会学概論B、学術情報論Bを履修することが望ましい（ただし未履修の場合）。

#### 専門PBLセミナーB（文化人類学・文化社会学）

【担当者】○深田淳太郎、ティエリー・グットマン、村上直樹、立川陽仁

【概要】世界各地の民族と文化を、文化人類学及び文化社会学の視点から研究していくために必要な諸概念、諸理論を学ぶためのセミナーである。

【履修にあたってのガイドライン】このセミナーを履修するにあたっては、2年次前期末までに、文化学必修科目「文化人類学概論A～B、社会学概論A～B、比較文化論、比較社会論」の中から最低限2単位を取得していることが望ましい。また、このセミナーと並行して、「文化人類学概論B、社会学概論B、比較文化論、比較社会論」の中から2単位を履修することが望ましい（ただし、未履修の場合）。